

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前よりの理念とも合わせて、地域をも含む理念をとり入れている。	○	理念を見直して理念を共有しそれに沿った支援ができるよう努力していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念や行動指針を、職員全体が受けとめて努力を続けています。	○	職員の行動指針を作成し、出勤してもすぐ目につく場所、名札に、基本理念と行動指針を掲示して、日々向上するよう、努力を続けていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホームの理念を運営会の時にもお話しています。	○	ホームだよりの中にも理念を書き入れて、家族の方にも見ってもらって理解していただく。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々には、日常的にはあいさつをしています。	○	民生委員の方々にも、気軽に遊びに来ていただけるよう声かけを行っていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館等の行事に、参加をさせてもらっている。	○	社会福祉協議会の方々にも、行事等あれば連絡をもらっています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	いろんな会合に出席させてもらい、認知症の理解を得られるよう努めていきたい。	○	老人会の方々にも、参加できる機会を伝えてくださいと、お願いしてできる限り参加していきたいです。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解し評価された内容については、改善できるものは取り組んでいます。	○	評価された事に対して、一つでも多く改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実体や評価についてのお話をもさせてもらっていききたい。	○	外部の意見をも聞いて、サービスの向上に活かしたいと思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会にもお願いし参加させてもらっています。	○	市町村の勉強会への参加を考えています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前利用者の家族にもお話をされたことがある。地域福祉権利擁護事業の訪問を受けている方がいます。	○	全職員が制度を理解できるよう勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない介護を目ざしている。県、市町村より連絡事項があれば、職員全員に読んでもらい、サインするようしています。	○	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会があれば参加し勉強していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>入居申し込み時、又、入居時に十分に説明を行っているので、理解、納得はしていただいていると思う。わからない事や不安がある時は、その都度対応している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者からの不満、意見等は十分には反映されていない。</p>	○	十分に受けられるように、利用者とのかかわりを持ちたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>家族とは話しやすい関係を築き、面会時には日々の様子を伝えている。変化が起きたときは電話連絡をしている。又、毎月、ホーム便りを作り、写真を貼付し様子や健康状態等を報告している。家族よりの預かり金は、金銭出納張りに記入し、来居された際には確認してもらい、サインを頂いている。</p>	○	電子メールでの報告もしていきたいと考えている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情箱の設置を行っている。家族さんへの推進会への参加も呼びかけている。</p>	○	苦情箱の設置もあるのでどんどんと意見を言ってもらい改善していきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>出勤している職員でのカンファレンスは聞いている。</p>	○	少しの時間を作り1回でも多く聞けるよう努めていきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>小カンファレンスを聞き、業務改善に努めている。</p>	○	要望なりに柔軟な対応ができる職員の確保に努めたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>各ユニットごとの利用者の把握の為に職員の異動は仕方ないが最小限に抑えている。1階、2階のスタッフであっても、利用者との顔なじみができるよう毎日勤務場所を変更している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修にも参加させてもらい、知識をつけてもらうようにしている。	○ 院内外への研修にも参加をさせてもらって、ケアの質の向上できる人材育成に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会には加入しているが、地域でのグループホームとの交流はない。	○ 地域のグループホームとの交流への参加をお願いし、勉強会へも積極的に参加をしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	青鳳会全体での歓迎会、忘年会に出席したり、慰安旅行、スポーツ観戦チケットの配布あり。月2回の往診時に職員との会話の時間を持っている。	○ 働きやすい環境作り、問題等が生じれば話し合いで解決できるよう努力したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績、勤務状況を評価しバージョンアップできるよう努めたい。	○ 定期的カンファレンスやミーティングを行い、各自が向上心を持って働いてもらえるようにしていきたい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される少し前に入院先へ訪問したり、お話を聞かせてもらってはいるが信頼関係を築くまでには至っていない。	○ 入居までに施設を見学に来ていただき、施設のサービスなど、わかっていただけよう説明する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居が決定になっての話し合いとなっている。入居申し込み時に、施設の案内と施設の説明などをわかりやすくお話させていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等からの情報をもとにホームでどのように意向に添った支援ができるか考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日常生活、趣味、嗜好など多くの情報を家族様に聞いて、少しずつ自然にホームに慣れていただけるよう配慮、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個室で向き合ってお話をしているときに昔の体験談を聞かせてもらい共に感じあえる事ができる。	○	本人と一対一でゆったりと話す時間を少しでも持てるように時間をつくっていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人がふさぎこんでいる時に接していて家族に連絡の必要があるかを判断して連絡をとっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会のときに各部屋で自由に制限を決めず、長い間でも居てもらえるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達、近所の方々の面会の時間を決めず、自由に行き来できるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良く支えあえるよう努めているが、難しい状況の方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院で退居されても訪問して近況を伺っている。	○	家族へ電話をかけて近況を聞いたり、年賀状などを考えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で声かけ、話し合いを持ち困難な方に対しては職員や家族との関わりの中より見つけていくよう努めている。	○	職員間で情報を交換し、本人の希望が叶うように具体的に検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に話を聞かせてもらい、少しずつ理解していくよう努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのその日の体調や食事量をチェックし行動を見守るように努めている。	○	毎日が同じような過ごし方をされている。もう少し前向きに過ごせるよう努力したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時などに本人、家族の意向を聞いて計画を作成している。3ヶ月に1回、評価、見直しを実施している。計画の達成度や今後のケアについて検討している。	○	他職種間とも連携をとりプランに反映されていきたい。アセスメントやモニタリングなどの仕方の勉強をし、検討中。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じ3ヶ月に1回の評価、見直しは行っている。変化が生じた場合は家族に相談し実状に即した介護計画の見直しを行うようにしている。	○	プランが現在の状態に合っているかを観察し無理のないよう利用者本意に考えていきたい。津田式ケアプランの活用かセンター方式を利用するか検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録用紙を改善して職員が記録しやすいようにタイムリーに排泄、水分、起床時間、入眠時間、問題行動等記入できるように作成し、一日の観察事項、様子、その他個人の記録が分かるように記入して、実践や介護記録の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人を活かし、重度化した場合や緊急の対応等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や社会福祉協議会の方々と協力し支援しています。	○	民生委員の集まりが毎月第二火曜日に開いているのを聞き、参加させてもらっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	県、市町村のサービスを利用し支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連絡を取って本人の必要性に応じた支援をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人である母体での受診や歯科、眼科、皮膚科の医療機関の受診もサポートしている。入居前からのかかりつけ医に継続して往診に来ていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週1回専門医の往診を受け経過を見て指示を出してもらっている。ご家族の方にも病状説明をさせていただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師もいて、日常生活の健康管理のチェックを行っている。異常あれば病院に連絡して、指示を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院、退院について病院との情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について文章にて確認してもらっている。また状態が悪くなれば、家族への連絡、病院との連絡も取っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期にむけてホームで、できる事できない事を見極め、医師や看護師と相談しながら支援するようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時、自宅、他施設に移り住む際、十分な情報提供をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては入社時に説明を行い、契約書を交わしている。一人ひとりに対するやさしい言葉がけで対応、記録などにも配慮している。	○ 申し送り、研修会への参加を通じてプライバシーを大切にしよう努力していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望ができることとできないことの折り合いをつけ、自分で決定し、納得して生活してもらっている。	○ 少しでも多くの利用者の思いが、叶うよう支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者の健康、精神状態に対応する介護、自立支援にむけての援助をしている。出来る限り一人ひとりのペースを大切にしているが、職員側のペースで行なうこともある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容についてはホーム内へ訪問してもらっている。本人が望んで行きつけの美容室へ行かれる事もある。	○ 気をつけて見てあげられるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り自分で食べられるよう援助し無理な時は介助をしている。本人の希望でお粥に変更できるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調に合わせた(疾病等もあるので)支援している。コーヒーやおやつ等本人が望むものを聞き、買い物をして、望む時に出し、タバコは決められた場所(外)へ行って吸われている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの標示を見てわかりやすく大きくあらし、各個人により声かけをしてトイレに誘導し付き添いの必要な人には介助している。排泄チェックをして時間的にトイレ誘導したり、便秘に注意して排便がスムーズに出るよう心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を参考に声かけして入浴をうながし、意思を確認し、ゆったりと入浴できるように配慮している。	○	自分で入浴できる方には、入浴時間を決めずいつでも入れるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に体調の変化に気をつけ、夜間トイレの回数が多い人には見守り対応できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホールでカラオケ、カルタとり、習字などを行っている。トレー拭き、新聞紙でゴミ箱折りをできる方に手伝ってもらっている。	○	それぞれの得意分野を活かし、たくさんの楽しみを持ってもらえるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望でお金を所持している人が一部居る。殆どの方が預かり金により金銭出納を行い、面会のときに家族の方に確認してもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に声かけをして日光浴をかねて戸外に出るようになっている。	○	今後ともできるだけ多く戸外へ出かけられるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望があれば身内の方に会いに外出したりしている。	○	今後とも機会をみつけて参加したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば電話をかけ直接お話ししたり、用件を聞いて伝えたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は自由でいつでも訪問できるよう好きなだけいてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	歩行が不安定で転倒の可能性がある利用者には、やむを得ない場合に備え身体拘束の同意書もらっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近くに国道があり、交通量も多い玄関は施錠している。入る時は「ボタンを押す」出るときは「暗証番号を押す」ようになっており、面会者が帰られる時は、職員がすぐ対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室への訪室にはノックをして入室、声かけしての入室を行っています。夜間はそっと見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	持ち物チェックは行っている。自己にて管理ができなくなればその時に対応するようにしている。裁縫用の縫い針がなくなったので数を確認し、本人の希望にて、職員の方で管理するようにした。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転落防止の為ベッド上では寝ず、床の上に布団を敷いて寝てもらっている。誤薬に関して一人ずつケースに保管して氏名、日付、服用時間、薬の種類など確認して、服薬チェックし記入している。タバコを吸われる利用者には、本人の同意をえて、タバコ、ライターを職員の方で管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが、定期的には行えていない。	○	誰もが行えるように知識や訓練を身につけられるよう努力をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時における一時避難場所を地域の方にもお願いし、確保していく。	○	運営推進会でも働きかけをしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に起こるかもしれないリスクについては説明はしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調については、看護師の指示や毎日のバイタルサインのチェックまたは、観察によって気付き受診、処置を行っています。家族の方にも連絡しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より医師の処方箋のコピーと説明書を頂き、薬の確認し管理している。各個人別にケースに薬を1回ずつ服用するように、朝昼夕の色分けをし、職員が確認をして内服してもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表の確認と本人の訴えにより下剤の調整をしている。食事や、水分摂取にも注意し体を動かす事の大切さも伝え支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけし、口腔清拭の介助を行なっている。寝る前には義歯をポリドントを使って洗浄している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行っている。水分摂取の困難な人には、とろみ剤等を使用し、むせのないよう工夫している。体重の変化にも気をつけ第二・第四土曜日には体重測定している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては全職員、利用者が予防接種を受けている。疥癬については、専門医の治療を受けて、衣類等は全てを乾燥機にかけて消毒を行っている。布団の日光消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員一人ひとりが、台所機具、食材取り扱いに注意を払っている。まな板、ふきん、食器を漂白し、冷蔵庫の整理、清拭又は残物の処分、賞味期限のチェックは、こまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	戸外でも、日光浴をしながらお茶が楽しめるよう工夫していきたい。	○	長椅子は置いてあるがテーブル等の設置を考えたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の壁には、四季に合わせた手作りの作品を掲示してある。行事の写真や書道なども貼っている。玄関には観葉植物を置き、ホールの壁には季節感のある物を表示するよう工夫している。トイレチェック、トイレトペーパーの補充等は2時間毎に行うようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの日当たりのよい南側にソファを置いてテレビを観られたり日光浴も楽しめる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとり持ち込まれているものが違って家族からのプレゼントや、新しくここでの生活で使い始めた物等と過ごしやすくなっていると思われる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールにおいて温度計、湿度計を設置して管理し、換気に努め、温度計、湿度計を参考に、温度調整は利用者の方に合わせている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置(ホール、廊下、一部ではあるが居室、トイレ、浴室等)ほぼバリアフリー状態である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各個人の居室に、本人の名前を分かりやすく大きく書いて表示をしている。かわいく干支を表示したり、トイレの表示も行っている。トイレ前の床にも「トイレ」と表示をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	エレベーター横の空間にソファを置いていて窓から外の眺めが良く時々外を見に来る利用者がいる。春には桜の花も見えるよう、桜の木の植樹又、秋にはすだちの木が実って調理に使用できるよう2本植樹している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ADLの低下防止の為に、午前と午後にラジオ体操を行って体力づくりをしている。

2ヶ月に1回は誕生会や季節の行事を取り入れて入居者様に喜んでいただき、長生きできるよう励ましている。